

2013
春の
号外

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

福玉便り

2013年3月11日(月)発行

ふ く た ま だ よ り

企画・監修：広域避難者研究会・埼玉班 執筆：『福玉便り』編集部 編集デザイン：NPO 法人ハンズオン埼玉
協力：(一社) 埼玉県労働者福祉協議会・震災支援ネットワーク埼玉 (SSN)

埼玉の皆様へ

こんにちは

『福玉便り』と申します。

福島・東北から、未だに**6700人以上**

の方が、ふるさとを遠く離れ、家族と離れ、埼玉に避難を余儀なくされています。

『福玉便り』はこうした方々に向けた唯一の新聞として、ほぼ毎月、4000部をお届けしています。埼玉県内で支援活動を行なってきた団体・ボランティアが共同して編集し、県内の企業の方が印刷をし、避難者のグループや自治体の方が配布をしてくださっています。

3年目を迎えて、避難されている皆さんの状況が今、どうなっているのか、どんなことを感じて毎日暮らしているのか、どんなかを、あらためてお伝えしたいと思い、この「2013春の号外」を編集しました。どうぞご一読いただき、避難されている方々の声に耳を傾けてください。そして、皆様の声をお寄せください。

【ひろば】読者の皆さん
の声のコーナーです。

↓15ページ

春からはパソコンを勉強して自分
情報を探そうという気持ちで芽生え
ています。(万代洋子さん・石巻市から
さいたま市へ避難)



福玉マップ

→4ページ



3度目の春、「避難」と「受け入れ」の現在。

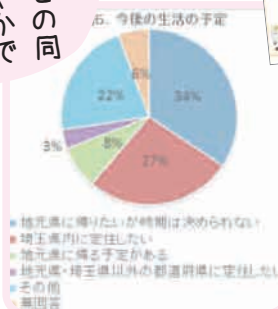
→2ページ

「離れば離れるほど、福島に戻りづらくなる。だからと言って埼玉に永住するわけではなく、どっつかずな気持ちがある。」
「洗濯物を干している時に、ふと、『なんでここにいらんだっけ?』って思う。」

今まで息子夫婦、孫達との同居だったので家の中が賑やかでしたが現在は大人だけの生活になり、活気もなくなり、たまに孫が泊まりに来るのを待っています。もうこの先一緒には暮らせない、この悲しさ辛さ、悔しさ、誰にぶつけたらいいのか。(南相馬市、六十代女性)

『福玉便り』読者アンケートから

→12ページ



自主避難者懇談会

→10ページ

避難者グループリーダー座談会

→6ページ

は出てくるけど、出てこない人は出てこない。そこで、個別訪問を考えています。
篠原 ぶれている私をみながら、「震災ってなんだろう」と一緒に考えてもらえればいいかなと。
新妻 避難者・支援者を超えて、人として想いあうことで強くなる。

鈴木 初めて、一時帰宅をしたときは感動しました。でも、だんだん荒れて、帰る気がなくなるんです。
佐藤 みんな、抛り所を求めているんです。
橘 出てくる人

避難されている方が、
埼玉で開業された
お店のご紹介!
→14ページ



地は広範囲に及んでおり、少なくとも3つの経緯が窺えます。

・地震・津波で被災し、家を失った方。北は青森県から南は

埼玉県への避難者の数と経緯

『福玉便り』編集委員会が
2013年2月に埼玉県内の
各自治体に調査したところ、
県内に6700人以上の避難
者がいるという結果が出まし
た。二重集計などの誤差の可
能性を踏まえても、2千人以
上の方々が、国の集計からこ
ぼれ落ちてしまっていること
がわかります。

き市などで放射線量の高い地区からの避難者が該当します(10〜11ページ参照)。

- ・原発事故の影響で、避難指示による「強制避難」とは別に、「自主避難」という形で福島県等から奇玉県に避難して

市・南相馬市・川俣町・川内村
などからの避難者が該当し
ます。

一部が「警戒区域」「計画的避難区域」に指定された、檜葉町・富岡町・大熊町・双葉町・

- ・原発事故の影響のもと、国や自治体の指示によって避難した方。全域もしくは

から埼玉県に避難している方がいら

千葉県まで、
太平洋側の
広い地域

青森県 1人
茨城県 40人
千葉県 4人
栃木県 13人
千代田県 100人



2012年6月に成立した「
発事故子ども・被災者支援法
(2)などのように、法的な
援も整備される動きがあり

現在、東北地方の被災地では、インフラ復旧、住宅再建、除染など、懸命な復興作業

避難」の境目は曖昧になっていきます。

難者等の数（避難者等の数）

109,637

避難指示区域
の再編(1)に
よって、「強制
避難先の都道府

ます。加えて、
いた方も大勢
けた方も大勢
を複合的に受

(別) (避難先: 47)

避難先	人数
黄色	6,084
灰色	5,952
青	4,037
緑	5,375
赤	33,403

であり、地震・津波・放射能汚染による被害

都道府県 約1,200

宮城県	福島県
岩手県	山形県
東京都	新潟県
茨城県	埼玉県
その他	

ただし、これらの区分けは
 市町村
 復興庁ホームページより

宮城
福島県

避難指示区域と警戒区域

県 532人
市 5824人

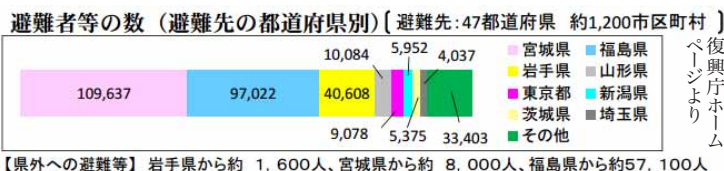
警戒区域の概念図

平成25年3月7日

凡例

- 停遷困難区域
- 居住制限区域
- 避難指示解除準備区
- 警戒区域
- 計画的避難区域

現在

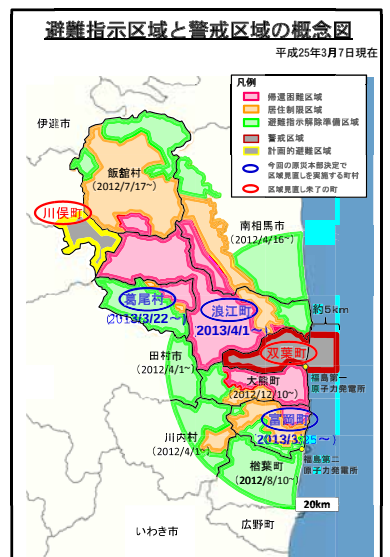


【県外への避難等】 岩手県から約 1,600人、宮城県から約 8,000人、福島県から約57,100人

『福玉便り』編集委員会(埼玉労働者福祉協議会、ハンズオン埼玉、震災支援ネットワーク埼玉)は、2月18日～3月5日の期間に、埼玉県内の避難者数調査を実施しました。2月7日時点で避難者が居住中としている55の自治体宛に、ファックスおよび電話にて「各自治体内の受

け入れ避難者数」「受け入れた避難者の出身ごとの内訳(県別、および福島県については市町村別)」を尋ねたところ、全ての自治体から回答が得られました。鴻巣市は避難者数が非公開となっているため、次ページでは、2012年5月29日時点で埼玉県が発表した人数を掲

載しております。なお、避難者の出身地の内訳については、上述の鴻巣市に加えて8の自治体が非公開との回答でした。そのため、本ページに掲載している出身ごとの避難者数は、公開された避難者数の合算となり、実際の人数はもっと多いことが見込まれます。



福島のホームページより

3度目の春、 「避難」と「受け入れ」の現在。

す。しかしながら、今も避難指示が敷かれた地域も多く、個々の生活事情も相まって、多くの方が埼玉県での避難生活が長期化しています（12〜13ページ参照）。

埼玉県内の各自治体の受け入れ対応

埼玉県では、震災直後から多くの自治体が体育館・福祉センターなどで避難者を受け入れてきました。「さいたまスーパーアリーナ」に最大で2500人が避難し、大勢のボランティアが集まったことは、テレビ等でご覧になったかと思います。

スーパーアリーナの閉鎖後、双葉町民が移動した旧県立騎西高校を除き、2011年夏までには多くの避難所が閉鎖となりました。代わって、「借り

上げ住宅制度」(3)の導入に伴って、各地の民間賃貸住宅あるいは公営住宅に避難者の方々が入居することになりました。

避難所から「借り上げ住宅」へと移ったことで居住環境は改善されましたが、他方で避難者の方々が各地で孤立し、支援が行き届きにくくなる結果をもたらしました。また、多くの場所ですり上げ住宅の期限が2014年3月まで延長されたものの、その後は確定しておらず、依然として不安定な状況に置かれています（12〜13ページのアンケート参照）。

避難者への生活支援と埼玉便りの活動

埼玉県内の避難者に対して、いくつかの自治体では、水道光熱費の減免、交流会の実施、広報誌の配布などの生活支援を独自に実施しています。また、さいたまスーパーアリーナに集まった諸団体が引き続き埼玉県内で支援活動をおこなっているほか、各地のNPO・ボランティアの方々が支援に関わっています。さらに、避難者の方々自身のグループも立ち上がり、自立に向けた一歩を踏み出しています

(6〜9ページの座談会参照)。

こうした支援活動の展開を踏まえつつ、避難者の方々への情報提供を目的として、『埼玉便り』は2012年3月に創刊されました。それ以来、ほぼ毎月のペースで発行を続けるとともに、埼玉県内の避難者グループ・支援団体が意見交換する「埼玉会議」の開催（2012年7月）などを進めてきました。今年2月からは、埼玉と福島を結ぶ「埼玉バス」の運行も試験的に始まっています。

しかし、自治体やボランティアによる支援は地域によってバラつきがあり、『埼玉便り』でも避難者の方々に對して必ずしも十分な情報を届けられていない状況ではあります。あの日から2年が経過し、東日本大震災・福島原発事故が過去の出来事として忘れられつつある風潮もあります。が、埼玉県内に数多くの方々が避難していることを、身近な問題として、埼玉県民の皆さんにぜひ一緒に考えていただければ幸いです。

注

(1)警戒区域と計画的避難区域を見直し、新たに「避難指示解除準備区域」「居住制限区域」「帰還困難区域」の3区分に再編する動きが進んでいる。

(2)一定の線量以上の放射線被ばくが予想される「支援対象地域」を対象に、「避難する人も、とどまる人も、国が責任をもって支援しなければならぬ」と定めた法律。

現状では理念法にとどまっているため、具体的施策をより早期に実現することが待ち望まれている。

(3)都道府県が民間賃貸住宅を借り上げ、家賃や敷金・礼金・仲介手数料などが国庫負担となる制度。



6750人？

のっぴりふくらんでいきますように...

マップ

作成：福玉便り編集部

埼玉県内の各地で、被災者・避難者と支援者が一緒に交流の場をつくっています。



■F カフェ珠寿

避難者の方々による cafe、交流スペースです。

■旧騎西高校

避難者の方々によるさまざまな活動が行われています。

■寄り添いステーション騎西【加須市】

マッサージや、お饅頭、手作り品、地元の野菜などのコーナーがあります。双葉町に限らず、加須市周辺に避難されてきた方々、ぜひお立ち寄りください。加須ふれあいセンター 0480-65-7938

■シラコバト団地被災者の会・ひまわり【上尾市】

県営シラコバト団地に避難してきた方々を中心に、月1回の交流会をおこなっています。

■杉戸元気会【杉戸町】

富岡町から杉戸町の国家公務員宿舍杉戸住宅に避難した方々を中心に、週1回の交流会を実施しています。

■春日部・つながりカフェ【春日部市】

月に1回、お茶を飲みながら交流しています。

■相双ふるさとネットワーク

【さいたま市など】

福島県相双地区から避難した方々と同じ地元出身者を中心とするネットワークです。

■一歩会【越谷市など】

越谷市を中心に 300 名の会員が所属し、月1回のイベント・交流会や見守り、地域の方々と共同の農作業などをおこなっています。

■「ひまわり」の会【川口市】

川口市に福島県に避難してきた人達を中心に、サロン（茶話会）を月1回開いています。

■さいがい・つながりカフェ

【さいたま市など】

広い和室で食べながら、飲みながら、心ゆくまでおしゃべりしましょう。月二回 木曜日。

主催・場所：With You さいたま

■お茶のみ交流会【富士見市】

市内に避難してきた方々の「お茶のみ交流会」を2か月に1回のペースで実施中。

■放射能から避難したママネット@埼玉

【さいたま市など】

■熊谷ふるさと交流サロン【熊谷市】

2 か月に 1 回のペースで交流会をおこなっています。

■ライフサポートステーションネット

21 熊谷 【熊谷市】

労働や雇用、暮らしの無料相談。支援物資の配布もあります。

■＜想い＞【鴻巣市】

鴻巣市赤見台に避難している方を中心に結成。交流会、「損害賠償説明会」など定期的に開催しています。会報＜想い＞も発行。

■きずなの会 【東松山市】

雇用促進住宅で結成された「きずなの会」が毎月交流会をおこなっています。

■鳩山町震災支援ボランティア 実行委員会 【鳩山町】

「鳩のつどい」を毎週実施しています。

■福島女性県人会【川越市】

福島県出身の女性なら、どなたでも！被災により移り住んで来られた方も。福島弁で、思いっきり話しましょう！毎月第3木曜に開催。

■ここカフェ@川越【川越市】

『心の内を話せる場を作りたい』という、ゆるやかな茶話会です。お子様連れも大歓迎です。主催：実行委員会＋社協

■おあがんなんしょ【ふじみ野市】

ふじみ野市では、毎月1回避難者の方々の交流会「おあがんなんしょ」が開かれています。

■羽生・つながりカフェ【羽生市】

毎月第2日曜日に開催しています。

■青空あおぞら【所沢市】

2013年3月から避難者の呼びかけで交流会がはじまりました。

■新座つながりカフェ【新座市】

2012年の夏から交流会をはじめています。



「避難」の今とこれから

避難者グループリーダー座談会

4〜5ページのマップにあるように、埼玉県内では各地で避難者の方々のグループが結成され、地元の行政・ボランティアと連携しながら、交流会や農作業、賠償相談会といった取り組みを進めています。今回、避難者グループのリーダーとして活躍されている5名の方々をお招きし、これまでの2年間で、今後のこと、必要とされている支援などについてお話いただきました。(編集部・原田)

編集部

埼玉県に避難された皆さんにとって、これまでの2年間は避難先での生活を落ち着ける時期だったと思いませんか、今後については、警戒区域の再編や、職業、家族構成の違いなどによって置かれた状況は様々で、多くの方が「これからどうしよう、そのために今、どうしよう」ということを悩んでいる時期であると思います。まず、ご自身の2年間の振り返っていただいてもよろしいでしょうか？

15年間は、俺とばあさんで我が家を守る

新妻 2012年10月に越谷市からいわき市に引っ越し、

「植葉特別警戒区域(1)」に入りました。3交代・34名で、深夜間はず植葉町を回っています。

植葉町は警戒区域から避難準備区域に変更しましたが、補償は少ない。屋根の壊れたところから水が入って家はネズミだらけです。これから、どんな風に修復していけばいいのか……。



新妻 敏夫さん

2011年3月に植葉町から越谷市に避難され、越谷市を中心とした避難者グループ「一歩会」の会長を務める。現在はいわき市に在住。

私ごとでもあるし、植葉町の問題でもあるのですが、「帰りたい」という人間としては私たちが60代が一番若い世代なのだと思います。3年後くらいには帰還できるのではないかと思いますが、インフラ、生活に



必要なスーパー、病院などの問題もある。隣の広野町から寸断されていて、線路は曲がったまま。住民が戻ってから直しても間に合わないのです。

いわき市から新地町まで花いっぱいという「浜街道・桜プロジェクト」が始まり、国道沿いにしだれ桜が300本ほど植えられました。とにかく、子ども・若者が帰ってくる福島県にしよう、という活動が続けられています。植葉町は平成26

年いっぱいくらいで除染が終わるそうで、町民の意見を集めながら、帰町の判断を決めることになっています。

でも、若い人が戻ってくる

のはまだ少ないです。私の感覚で、10%いるのかどうか……。息子は、風評被害でためだからというところで、茨城で仕事を再開しました。「60歳まで、あと15年は帰らない」と言っています。だから15年間は、俺とばあさんで我が家を守る。

そうやって何とか前に進んでいかないと、というのが現状です。大熊・富岡も、一生懸命に警戒隊が回っています。

震災後の4段階の心理

佐藤 アメリカの精神分析医によると、大震災後の心理として4段階あるらしいんですが、私も同じだと思っています。

最初の段階は、原発事故や避難が現実視できない、認められない。次の段階は、「そうは言ってもいられない」と仲間うちでハイハイ歩きをするようになる。その次の段階は、精神的にも身体的にも辛くなるけど、何とかプラスに、ほふく訓練を始める時期。そして、4段階目は、「これから自立して人生を



橘 光頭さん

2011年4月に浪江町から上尾市に避難され、県営シラコバト団地を中心とした避難者グループ「ひまわり」の代表を務める。

切り開いていくというような時期。

それぞれ個人差はあるけれど、この4段階を踏んでいるのではないのでしょうか。

篠原 まずは避難したときに、娘が受験生で、そこがなにより大変でした。下の子どもも小学1年生だったし、埼玉に移ることを決めて、置いてきた犬のことなどが、辛かったです。

鴻巣市に住まいを決めて、周りにも避難している人がいることを知って「情報が入ってない」と聞き、インターネットの情報を閲覧版で回した。それが交流のきっかけです。落ち着きだした頃から、他の方との交流が増えていきました。他のママ達も辛いかな？と思い、2011年の12月にクリスマス会を開いたんです。自分の気持ちを精算しつつ、みんなの声をミックス



鈴木 直清さん

2011年3月に南相馬市小高区から鳩山町に避難され、「鳩山町避難者の会」の会長を務める。



篠原 美陽子さん
2011年3月に浪江町から鴻巣市に避難され、2011年12月から会報誌「想い」を発行。

又しながら、会報誌「想い」も作っていきました。

我が家は、帰宅困難の上に、立ち入りもできない。今は賠償を戦っている状況です。

「狭間」の2年間だった

橘 この2年間、ひとことでも言う「あ」という間でした。

2012年の3月11日に、上尾市のシラコバト団地で黙祷の会を行ったのですが、その時には自分がもう一年いるとは思っていませんでした。ところが、昨年と同じく、今年も黙祷の会の準備をしている。時間は進むけど、復興は進まない、その狭間にいた2年間でした。

シラコバト団地は、一カ所に50世帯いるというのが大きく、横の連携を思い立ってやりました。「ひまわり」の結成のいきさつとしては、震災翌月の4月に団地の方たちが主催で激励会をしてくれたんです。自己紹介しながら困りごとの話をしたら、みんな困っていた。ちょ

うど私がテレビ局の取材を受けたもので、家電の寄付をもらって、配って回りました。それが「ひまわり」のスタートです。

一時帰宅に対する心境の変化

鈴木 私は南相馬市小高区から避難しました。双葉郡は埼玉の人にもイメージしやすいと思うんですが、南相馬市小高区もまた、地震・津波・放射能の被害にあった地域です。

一昨年の7月に初めて、一時帰宅（2）をしたときは感動しました。でも、心境は変化して、だんだん帰る気はなくなるんです。トイレも使えず、水道も使えず、ゴミもひどい。ネズミもいる。一時立ち入りして帰ってくると、気持ち晴れなくて具合が悪くなってしまうんです。

去年の4月16日に避難区域の見直しがあり、避難準備区域に指定されました。でも、自治体は、復興のためのアンケートばかりとるけど、何も変わっていません。

子供のこ、仕事のこと

編集部 鳩山にしても上尾にしても鴻巣にしても、いろんな町の方が避難していると

いますけど、周りの方で、特に困っているということとか、こういう動きがあるとかはありますか？警戒区域の見直しがおこなわれたにもかかわらず、埼玉から福島にわつと戻るというベクトルは生まれていないですよ。

篠原 子供がいる家庭は、いったん入った学校のことを考えると途中で動かしたくないので、迷っている方がいらつしやる。子供が複数いる場合、特に迷うんですよ。一人をキーに動くというより、トータルで見ると、数年間帰れないということがあると思います。うちの子が難しい年頃なので、あと4年は動けないかな？

他方で両親は福島に帰りたい気持ちもあって、でも家には立ち入りもできないから新天地を見に行ってみたんですが、自営業だったので「ここで何する？」って。自営業の人たちにとっては、住むことと仕事をすることがセットだから、難しいですよ。

福島県内の仮設住宅は、南相馬の原町区やいわき市が激戦区みたいです。

お客様扱いではなく
新妻 いわき市の仮設住宅

にたまに物資を持って行ったりするんだけど、仮設の中で何かをしたいと思っても、なかなか声をあげられないようです。

篠原 仮設住宅は、誰か元気な人がいて乗っかっていけたらいいけど、集会所などは常連さんばかりになってしまったり聞いたことがあります。

編集部 常連さんしか集まらないというのは、埼玉で開かれる交流会でも同じ問題がありますよ。

篠原 イベントのお知らせが多すぎるかな？と感じることもあります。あそこに参加できない人もいるし、行ったら行ったきりでお客さんでしかないし。

東京で開かれたあるイベントに参加したら、至れり尽くせりで、かえって申し訳なく感じたことがあります。

鈴木 いろいろやってもらっても、一過性のイベントで終わってしまうのは残念ですよね。

佐藤 純俊さん
2011年3月に富岡町から杉戸町に避難され、杉戸町を中心とした避難者グループ「杉戸元気会」の会長を務める。



佐藤 純俊さん
2011年3月に富岡町から杉戸町に避難され、杉戸町を中心とした避難者グループ「杉戸元気会」の会長を務める。

篠原 今後、避難生活が長期にわたる方もわかってきている。支援をうけるときにお客様扱いだと、じぶんたちの生活を取り戻すことになっていない。

「支援する／される」じゃなくて、どういう風に生活や情報交換の場を作っていきたいのか、今後の課題だと思います。

みんな拠り所を求めている

編集部 こちらにいらつしやる皆さんは、それぞれグループのリーダーで中心的に活動されています。周りの方の状況やグループのことをお話いただけますか？

新妻 一步会では、越谷市の中島地区に畑を借りて、ジャガイモなどの栽培をおこなっているのですが、今後も、ものを作って、収穫して、ということをやっていききたいと思っています。今日も挨拶に回ってきました。地域のみなさんと協力して、基本は今までもおり動いていきたいと思っています。

いわきでは、分断の問題があります。例えば仮設の中で、車への落書きは、本当にあります。いわきでは各町の仮設住宅がどーんと建っていて、目立ってしまっています。

7



鴻巣・上尾合同クリスマス会
2012.12.15

少しでもコミュニケーション

ンが取れるように、私は、「犬を連れていくときは、必ず袋をもっていくように」「ゴミはみんなですべて片付けよう」と周りに声をかけています。みんなあまり挨拶しないけど、俺は犬にも挨拶するぞ、と笑う。

佐藤 みんな、抛り所を求めているんです。

今されている賠償は、「東電が加害者の当事者、保証人が国」という構図になっています。原発被害者としては第一原発から何キロという考え方になるけれど、私の提案としては、放射性物質の線量で考えるべきだし、国策でやっていたという大きな括りは忘れないほうがいいのではないかと。

今回のことは「東電どうのこのうの」もそうだけど、その背景にあるものを考えたほうがいい。私たちは現在地をどこにい

るのか見失うと、孤独感、孤立感がともある。現在地がどこにあるのかという、歴史的スパンもみなきやいけない。

仲間たちを預かっているリーダーとして、そこはぶれないという責任がある。どこに自分たちがいて、どこにつながっているか、ということをつなかつた上で、仲間づくり、組織づくりをしていければいい。

ぶれてもいいのかな、と

篠原 私は、自分自身がぶれているのを表面に出してもいいのかな、と思っています。ぶれている私をみながら、「震災ってなんだろう」と一緒に考えてもらえればいいかな、と。

それに、私がわからない気持ちもあります。私には、自主避難の方々、津波で被災した方々の実際の辛さはわかりきれない。それなら、わかりあえる人同士を会わせられたらいいかな、架け橋を作っていければいいのかな、と。

賠償の相談というの、ひとつの窓口です。賠償格差を知っている、救えない人たちがいるってわかってるから、じゃあどうしようかなと、賠償相談会を開いたんです。「想い」の活動として東京電力の賠償相

談会を行っていて、2月に開催する相談会が第6回目になります。また、鴻巣市に何かお願いするときは、行政の方のお人柄がわかっているからこそ、対人が大切なんだな、と思っています。

鴻巣では他のグループのようには組織化はしていませんが、いざとなるとたくさんの方が相談に乗ってくれるし、手伝ってくれています。人をもてなす、人を思いやるホスピタリティの気持ち、皆さんを動かしているのではないのでしょうか。「お変わりない？」という、ちょっとした心遣いの延長に、その支援があると思います。

鴻巣で昨年クリスマス会をしたときに同じ団地に避難中のママ達に、新聞記事のスクラップをつくる作業をお願いしました。助成金をいただいたので、こうしたちょっとしたお手伝いをお願いしています。

今後の計画については、3月31日に「あるあるいろいろ相談会」を開いて、司法書士の先生が来てくれることになっています。必要なことを、相談できればいいな、と。最初に座談会をやって、ランチを食べて、司法書士の方がどういう方かを知ってもらえるようにプロフ

イル表を渡して、待っている時間を有効にしたいと思っています。

団地から全域へ

橘 今は、シラコバト団地から上尾全域へ、ということを考えています。

周りの避難した人たちの状況として、出てくる人は出てくるけど、出てこない人は出てこない。そこで、個別訪問をして、困っていることを聞こうかなと考えています。

あとは、「ひまわり」の食事会を毎月開いているんですが、「行ってもいいかな」と思ってもらえるような工夫を考えています。案内状に「自治会のきれいどころを揃えました」と書いた(笑)、家で作っていた料理とか持ってきてもらってお互いにふるまう会にしたり。昨年の忘年会のときは、持ち寄り



3.11追悼式典・上尾シラコバト団地
2012.3.11

にしました。ちなみに自分は、ロール白菜と角煮を作りました！

鈴木

鴻山町には避難者の会というのがあったけれど、そもその避難形態が「社宅」なんです。私たちが入ってくる前に、町に呼びかけて、ボランティアの方々が部屋を掃除し、カーテンをつけてくれた。毎月、ボランティア実行委員会が傾聴の会やパラスルカフェを開いてくれています。

そういえば、富岡町は夜ノ森の花見が有名ですよ。埼玉県で花見はやりませんか？

佐藤

杉戸で花見をやる予定です。杉戸高野台で4月6日にやって、7日は幸手の権現堂に夜ノ森の桜が1本植わっている、その根元で。3年目のイベントとして、50〜100人くらい集まれるんじゃないかと期待しています。

継続して、情報を出し続けること

編集部

いま、「住んでいる場所／もと住んでいた場所」をクロスするような交流会が必要なのでは、と思っています。長期化ということを考えると、今の活動をベースにしつつ、埼玉だけではなく、東京・千葉・栃

木・茨城などに広がった被災者のネットワークを作るといいうことも考えないといけない。

避難している方々の心の拠り所はどこか、が課題になってくると思います。

篠原 いま住んでいる場所に関しては、まず、アクセスの問題がありますよね。例えば「深谷でやるよ」と言われても、地図がないとわからない人もある、ということを念頭に置いておかないといけない。

チラシの作り方を考えるということも必要なこと。プラスαもしていかないと、個々の能力になってしまつから、支援の在り方としてきついのではないかと思います。

新妻 それは、仲間内で何とできないのかな？お互いに電話のやりとり、仲間同士で。

篠原 たしかに、コミュニケーションを取り合うことは大



「東松山・鳩山合同ふるさと交流会」にて40年ぶりに再会した二人
2012.12.22

事ですすよね。「こういう案内が来たけど、一緒に行かない？」という。

ただ、声をかけやすくするために、分かりやすく伝えるといふことは大事なかな、と。それがないと、いろんなところで止まつてしまつかもしれないし。

鈴木 避難元については、榎葉町や浪江町では、首都圏で説明会をやっていますよね。私は南相馬市に、首都圏で何回か説明会をやってくれ、いつもお願いしているんです。小高区の人たちが首都圏のどこにいるか知りたい、それが一番の動機なんです。

佐藤 富岡町は、昨年12月に「町民電話帳」ができました。本人がOKした場合に限られるのですが、慎重に取り扱うという事で、全国に避難した富岡町民の住所や電話番号が載っています(3)。

篠原 浪江町でも、事業関係でそういう動きが始まりました。私も個人的に、状況を掴んでいる人にお手紙を出したりしています。それが横に広がっていきばいいけど、大人になってからの友達作りって、そう簡単ではないですよ…。

編集部 そういうネットワーク作りにつながるように、今

後、もっと行政と連携していきたいと考えています。ちなみに「福玉バス」(3ページ参照)は、浪江町と双葉町が行政のホームページに掲載してくれました。

篠原 埼玉県内の各グループでも、浪江の人が何人、富岡の人が何人といった情報を出してくれれば、行きやすくなるかな、とも思います。継続して、情報をだし続けることに意義を感じています。それが、きっかけになればいい。人とのつながりを紡いで、16ページの会報誌を作っています。

「避難者」「支援者」を越えて、人として想い合う

編集部 最後に一言、「こうしてほしい、こうしたい」など、お話ししてください。

新妻 みなさんの活動に、ありがたく感じています。私個人



越谷市中島地区での一步会のじゃがいも収穫 2012.7.21

の考えですが、一步会のテーマは、避難者を越えて、想いあうことで強くなる。みなさんにもその輪に入ってもらおう。例えば畑で、地域の人と汗を流してものを作るといふのは、とてもいいことだと思っています。

佐藤 杉戸で、社会福祉に特化したNPOを立ち上げました。杉戸、幸手、宮代の3市町にお世話になり、それぞれの有志の方と連携が取れてきている。そういったNPOのひとつのモデルになればいい。それが埼玉に広がるいいと思います。

篠原 杉戸は理想的ですね。でも組織にするとなると、マイペースな私には無理だな(笑)。私は「でありたいし、」でいいのかな。と。みんなも一だから、「と」が寄り添えたりしたらいいな、と思っています。

もうすぐ3.11が来るので、また向き合えないとならない。会報誌9号を完成させ、上尾の黙祷の会のお手伝いをしようと思っています。

橘 今日は、鴻巣とのつながり、上尾の組織化についてお話ししましたが、もうひとつ「たくらみ」があつて来ました。黙祷の会の宣伝です(笑)。皆さん、いらしてください。

鈴木 私は終の棲家につい

て考えています。福島県は戻ってこいという話ですが、復興住宅を首都圏でほんと斡旋できないだろうか。廃校などを活用して、ゆるい被災者だけの住宅をできないか、と考えています。

篠原 あ、さっきのお客様の話ですが、一つの例として、クリスマス会は、片づけをみんなやりました。そうすると、お客さまではなくなるんです。また、掃除しながらでも話ができる！

編集部 ありがとうございます。

(2月11日、越谷市市民活動センターにて)

(1) 榎葉町の緊急雇用対策として、双葉署と連携しながら、緊急時避難準備区域から解除された地域をパトロールする活動。

(2) 警戒区域の住民が、地区ごとに順番で、安全上必要な装置を付けて自宅に短時間戻ること。

(3) 三宅島噴火災害(2000年)の全島避難の際に作られた島民電話帳をモデルに、富岡町が発行している電話帳。初版では全世帯の約4分の1の住所・電話番号が掲載された。

「自主避難」といわれる避難形態を、ご存知ですか？

主な理由

「ただちに健康に影響があるわけではない」とされる低線量(※)での被ばくは、実際「ただち」ではないだけに、その影響はすぐわかりません。あるかもしれないし、ないかもしれません。専門家でも意見が分かれています。地元(福島県など)比較的低線量の高い地域で生活・子育てをすることが、安全かどうか、十分な情報のない中で、多くの人が判断を迫られる状況が生まれました。

「自主避難」とは、国の指示ではなく、自分の意思で避難を選択することです。

「どうして国の指示がないのに、避難するの？」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、「自主避難」をされている多くの方は、「子どもの健康を守るために被ばくを少しでも避けた」という想いを、行動に移された方たちです。

埼玉県内にも母子で避難されている方を中心にたくさんいらっしゃいます。その多くの方が、十分な支援を受けられないまま、福島の家族との二重生活を強いられています。

◆選択を迫られたさまざま

された方々が多くいらっしゃいます。

◆放射線被ばくによる健康影響とは？

専門家の中には子どもへの放射線被ばくの影響は大人の3〜10倍だと言っている方もいます。また、放射線による健康影響は「白内障」「白血病」「甲状腺ガン」の3つとされていますが、専門家によって、あるいはウクライナ政府などは、それ以外の症状も被ばくの影響である可能性が高い、と発表しています。

チェルノブイリ原発事故の放射線による健康影響について、25年以上経った今ですら、はっきりとしたことが解明されていないのです。

◆甲状腺検査と健康への願い

福島県による、18歳以下(原発事故時)だった子どもを対象とした甲状腺検査の先行調査

さらに、どの方も、地元の市役所の対応での切ない思いをした経験をお持ちでした。

「こちらは低姿勢でお願いしても、『なんなら、関東に住んでください』とまで言われてショックでした。いずれ帰りたい

(2011年)では、3名の甲状腺癌、7名の甲状腺ガンの疑いと発表されています(平成25年3月5日現在)。原発事故の影響を否定しながらも、「断定はできないので、きっちり見ていく」としています。

行政主導の健康調査は順番を待たなくてはならないため、本来、不要であった様々な健康検査も、自費で行いながら、子どもの健康維持を願い、考え続ける生活をされています。

◆それぞれの選択をだいにしたい

放射能についてどう考えるか、すぐにはわからない、目にはみえないものであるだけに、判断は人それぞれ分かります。違う判断をした人どうしが関係を維持していく難しさは、福島の人にかぎらず、関東・埼玉で子育て中の親も、同じように感じてきた2年間だったのではないのでしょうか。

昨年六月に成立した「原発事故子ども被災者支援法」では、一定の線量以上の放射線被ばくが予想される「支援対象地域」からの避難、居住、帰還といった選択を、被災者が自らの意思によって行うことができるよう、国が責任をもって支援しなければならぬと定めています。避難する人も、どまる人も、どちらの選択をした場合も、国が支援する、と。しかし、まだ施策としてはなにも実行されておらず、広域避難をされている方々は、日々、悩みながら、迷いながら、とまどいながら、慣れない土地で暮らしています。それぞれの選択を、互いにだいにしながら、次の暮らしを一緒に考えていきたいと思っています。ぜひ左の座談会をお読みいただき、お母さんたちの声に耳を傾け、想いを想像していただければ幸いです。(編集部伊藤)

(※)「低線量」とはおおよそ200ミリシーベルト以下の放射線量を指します。

です。」

「ETCの割引とかがあればいいな、と思います。」

「子どもから離れる時間が欲しいな、と思います。福島だと千円で9時間預かってくれるところがあったので。そういう千

「洗濯物を干している時に、ふと、『なんでここにいるんだっけ?』って思う。」

福玉便り9号より転載

自主避難者懇談会

1月21日、東松山サン・コーポラスの集会所にて、母子もしくは家族で「自主避難」をしたお母さんたちの懇談会を実施しました。ご参加いただいたのは、郡山市からさいたま市に避難したAさん、福島市から嵐山町に避難したBさん、いわき市から川越市に避難したCさん、郡山市から東松山市に避難したDさん、郡山市から東松山市に避難したEさん、いわき市から東松山市に避難したFさん。

埼玉に避難した経緯などを自己紹介していただいたのち、不安に思っていることや今の気持ちなどについて、少しずつ話していただきました。

●福島と埼玉の間で落ち着かない気持ち

6人の方々のうち、早い方は震災直後、遅い方は昨年の夏に、埼玉に避難してこられました。一度は福島に戻ってから再び埼玉に避難した方もいらっしゃいます。まず、皆さんに共通しているのが、福島と埼玉の間で落ち着かない気持ちでした。

「離れば離れるほど、福島に戻りづらくなる。だからと言って埼玉に永住するわけではなく、どっちつかずな気持ちがある。」

「洗濯物を干している時に、ふと、『なんでここににいるんだっけ?』って思う。」



「私も、子どもの入学式で、『なんでこの入学式に

出席しているんだろう?』と思った。」

●福島に残った家族や地元自治体との関係

そんな気持ちは、福島に残ったご家族になかなか理解してもらえず、苦しい思いをされているそうです。複数の方々が、義理のご両親から「気にすぎ、神経質になりすぎ」と言われた経験をお持ちでした。また、義理のご両親との関係が、福島に戻るのを難しくしているという方もいらっしゃいました。

「福島に戻ったら、同じ市内で少しでも線量の低い場所にアパートを借りて住みたいと思うけど...。もともと義理の両親と一緒に住んでいたの、別の家に住むとは言えなくて。」

という気持ちがあるからこそ、お金をかけて電話をかけているのに...。」

●ご主人との関係

母子で避難した方々の場合、福島県に残っているご主人が、週1回〜月1回の頻度でこちらにいられているそうです。ご主人に感謝をしつつ、高速道路料金の経済的負担やご主人の体力的負担について、□々に心配をされていました。

「高速道路が無料のうちは、自分も頻繁に帰って、主人もこっちに来てたんですけど、4月から無料が解除されたと同時に、子どもがスポ少に入ったので、週末にも帰ることもできなくなって...。子どもは『パパ、パパ』って泣いてばかりで。」



「旦那が帰るのは、子どもが寝てから、夜中の3時くらい。『高速で寝たらマズイだろう』って濡れた鉢巻を頭に巻く姿を見て、泣きそうになった。つい、『そこまですて、こっちに來させていいのかな?』って思ってしまう。」

●仕事のこと

埼玉での避難生活には、幼稚

なか探せない。一時帰宅とか子どものことがあるし。」

その中で、内職を始めた方も2名いらっしゃいました。内職には、やりがいにつながるといふメリットがある反面、子育ての合間にはなかなか難しいという声もありました。

「私は内職を友達に紹介してもらって、1ヶ月に1万円ぐらいしかならないんですけど。会社の人に『がんばったね』と言ってもらえると、必要とされている感じで、うれしい。無心になれる時間ができて、気持ちに張り合いが出てきたかも。」

「私も内職をしたんですけど、下の子が小さくて昼間はできなくて、夜中に寝ないで仕事をしたら身体を壊してしまっ...。」

●いま必要な支援

最後に、いま必要な支援については、次のような声がありました。

「交流会に行くまでの1年近くは、ひとりぼっちのままでした。でも、参加してみたら、人のつながりができて、不安が少し解消された。してもらえばかりで申し訳ないって思うんですけど、出来る限り参加したい

ケツがあるといいですね。」「自分が病気や緊急事態の時に来てもらって、子どもを見られるところがあるといいですね。こっちはまだ、ママ友もそれほどいないし...。」

他方で、こんな声も聞かれました。

「震災から一年半も経つと、どこまで甘えていいのかわからなくて、迷います。自立しないといけないという思いもあって...。」

今後のことについて、おひとりの方はこの春に福島に戻ることを決意されたそうです。他の方々は、少なくとも現在の住宅にいられる来年度の春までは埼玉で生活する予定で、その後のことはまだ迷っているとのことでした。

埼玉便利編集部では、今後も、自主避難者の方々やお子さんを抱えたお母さん方を対象にした企画を実施しながら、必要な支援について一緒に考えていきたいと思っております。ご意見・ご要望がありましたら、ぜひお寄せください。

(ご参加いただいた皆様、貴重なお話をありがとうございました) (編集部・原田)

『福玉便り』読者アンケートから

昨年12月、『福玉便り』編集部に住所をご登録いただいている500世帯を対象に、アンケートを実施いたしました。いくつかの地域では避難者の方々同士でアンケートのコピーを配布してください、最終的に231人の方からご回答をいただきました。ご協力いただいた皆様、改めてお礼を申し上げます。ここでは、アンケートの集計結果と自由記述から見えてきた、避難者の方々の現状や今後について、お伝えいたします。(編集部・原田)

1. 生活支援について

まず、どのような生活支援を期待しているか尋ねたところ、図1のような回答がありました。このうち、特に回答が多かった住宅に関する期待として、自由記述で以下のような不

安の声が寄せられました。

★現在借り上げ住宅に住んでいますが、震災当時小学生だった長男も今は中学生になり、6畳2間のアパートで家族5人ではあまりにも狭く、勉強するにも下の子2人がテレビを見たりしていると集中する事ができなく、せめてもう一部屋あったら普通に布団をひく事も小さなテーブルを置いて勉強させる事もできるのに、と思う日々です。(富岡町、三十代女性)

★今、県営住宅に住んでいます。が、あくまでも避難民への提供であり、延長ではなく普通の方と同じ家賃を払って住めないのかと聞いたところ、「これから応募して当たればですね」と言われました。「ここにずっといいとなれば、妻が仕事したり保育園へ預けること

※ご回答いただいた方々の性別・年齢・避難元の地域の分布は、以下の通りです。

〔性別〕男性76人、女性145人、未記入10人
〔年齢〕二九歳以下10人、三十代47人、四十代37人、五十代42人、六十代54人、七十歳以上29人、未記入12人
〔避難元の地域〕岩手県5人、宮城県11人、福島県197人(浪江町39人、南相馬市38人、富岡町34人、大熊町22人、双葉町21人、いわき市10人、楡葉町8人、福島市7人、その他18人)、その他2人

も可能になるんじゃないかと思っています。やっと住んでいられる皆さんと仲良くなれたのに、また二からやり直しということかなりきついなと感じています。(いわき市、二十代男性)

同じく回答が多かった「生活情報の提供充実」に関しては、以下のような自由記述がありました。

★避難元、避難先どちらも年月の経過につれて生活支援等の意識が希薄になってきている感じがする。まだまだ普通の生活の中で不便さを感じる事は多々ありますし、困りごとと悩みごとたくさんあります。(南相馬市、五十代男性)

★避難先の生活を送る上で地元の情報が知りたい。福島県民、避難者と思われがちであるが、十人十色様々な問題を

抱えていることを、もっと気にかけて欲しい。(富岡町、四十代女性)

また、自主避難した方々を中心に、避難元との交通に関する要望が自由記述に多く寄せられました。

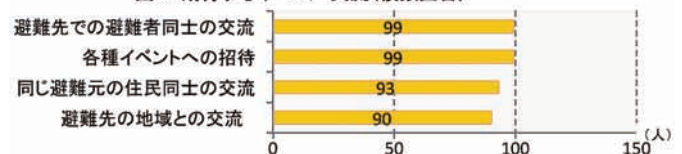
★月に1〜2回は車で福島に帰っているのですが、高速料金やガソリン代など大変です。せめて高速道路が無料になってくれれば毎週末には父親に会わせてあげることが可能になるの、と思います。(二本松市、四十代女性)

2. イベント・交流会について

期待するイベント・交流会について尋ねたところ、図2のような回答がありました。埼玉県内では各地で交流会が実施されておりですが(4〜5ページのマップ参照)、地域によつて交流会の有無にバラつきがあり、自由記述で以下のような声も寄せられました。

★となりの狭山市では福島から避難している人達で集まる交流会やイベントがあるのを聞いて、人間市でもそういうのがあるといいなあと感じてました。(南相馬市、四十代女

図2. 期待するイベント・交流(複数回答)



性)

★秩父には祭りなどたくさんありますが、招待されたい。招待されたら、いずれ地元に戻ったときに、秩父の良さを話せると思う。(いわき市、五十代男性)

★蓮田市近郊でのイベントがもう少し多いと、参加しやすいかと感じています。(浪江町、五十代男性)

また、避難先の地域で開かれる交流会だけでなく、同じ地域、同じ境遇の方と集まる機会を期待する声も寄せられました。

★市町村ごとの交流にしないと、話題が合わない。警戒区域等、市町村ごとに分割が違うため、話題の中心となる賠償で齟齬を生じる。(南相馬市、六十代男性)

★自分から自主避難生活であることは言えず、同じ立場の方と交流する機会がありません

図1. 期待する生活支援(複数回答)

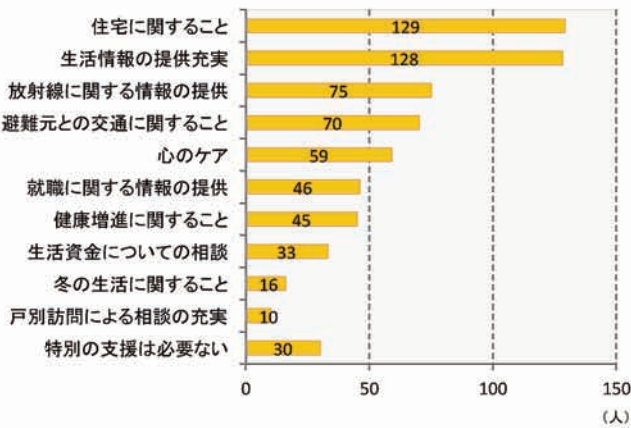
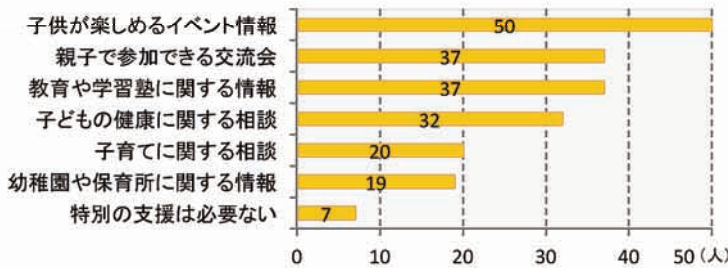


図3. 期待する子育て支援(複数回答)



ん。地元に戻っても、その話題にふれないでいるのが当たり前です。でも、同じ状況の方(母子避難中)とお話ができる場があれば是非参加してみたいと思っています。(郡山市、三十代女性)

3. 子育て・家族について

中学生以下のお子さんをお持ちの81人に、子育てに関する支援への期待をお尋ねしたところ、図3のような回答がありました。また、自由記述では、以下のような切実な声が寄せられました。

★避難先での病院、子育て支援等さまざまな情報が欲しい。娘のトレインの最中でおきた避難生活で母子共に精神的に苦しい。紙おむつの支援はとも助かります、今後も継続を

★埼玉県内で健康診断を受けようとする、指定された病院は県に2か所くらいで、遠くに行けません。子供の甲状腺の検査も福島では予約で毎週水曜日のみで県外からはなかなか学校休ませては連れて行けません。福島県外で受診することはできないでしょうか。(飯館村、五十代女性)

★埼玉県内では健康診断を受けようとする、指定された病院は県に2か所くらいで、遠くに行けません。子供の甲状腺の検査も福島では予約で毎週水曜日のみで県外からはなかなか学校休ませては連れて行けません。福島県外で受診することはできないでしょうか。(飯館村、五十代女性)

★埼玉県内では健康診断を受けようとする、指定された病院は県に2か所くらいで、遠くに行けません。子供の甲状腺の検査も福島では予約で毎週水曜日のみで県外からはなかなか学校休ませては連れて行けません。福島県外で受診することはできないでしょうか。(飯館村、五十代女性)

★被災者向けの雇用等も少しはあるのですが、男性で肉体労働の募集ばかり、女性は看護師の募集のみ。20社以上面接を受けましたが、年齢で難しいとの回答です。新卒者も求人難の時代ですので仕方ありませんが、各社、間口を広げていただけたら幸いです。(大熊町、五十代女性)

★被災者向けの雇用等も少しはあるのですが、男性で肉体労働の募集ばかり、女性は看護師の募集のみ。20社以上面接を受けましたが、年齢で難しいとの回答です。新卒者も求人難の時代ですので仕方ありませんが、各社、間口を広げていただけたら幸いです。(大熊町、五十代女性)

5. 今後の生活の予定について

今後の生活の予定について尋ねたところ、図4のような回答が得られました。なお、「その他」を選んだ方は、ほとんどが「迷っている」「決められない」「家族の意見がバラバラでまとまらない」と書かれています。

★被災前から主人は埼玉で働いていたので、同居するようになり、1年と8か月になります。津波での避難なので、以前住んでいた場所には戻れないですし、かと言ってずっとここにいたいというわけでもなく、困っていないわけでもないけど、困っているわけでもない…。あいまいなままにきてしまつて、正直とまどっています。(宮城県山元町、四十代女性)

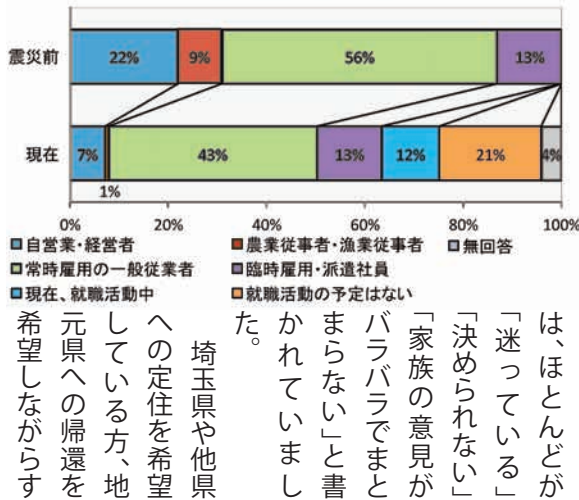
6. これからの支援に向けて

このように、今なお多くの避難者の方々が、住宅・子育て・仕事などに関して難しい状況に置かれています。そして、地元の復興状況・家族構成・職種などを背景に、それぞれの抱えたニーズが個別化し、埋もれやすくなっていると言えます。これからの支援に向けて、

- ・国の政策が提供できること(高速道路料金の減免、借り上げ住宅制度の改善など)
- ・埼玉県内の各自治体が提供できること(子育て支援や病院の情報提供など)
- ・埼玉県内の企業が提供できること(就労支援など)
- ・避難者の方々が自身やボランティアが提供できること(交流会の開催など)

といった役割分担と連携を明確にするとともに、より一層の支援体制の構築が必要とされているのではないのでしょうか。

図4. 震災前と現在の仕事

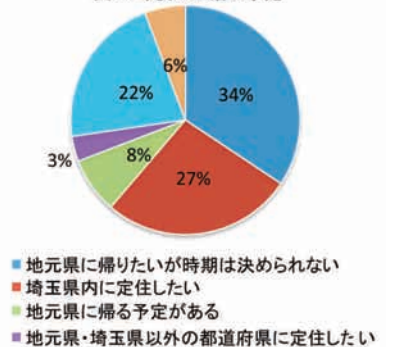


★被災前から主人は埼玉で働いていたので、同居するようになり、1年と8か月になります。津波での避難なので、以前住んでいた場所には戻れないですし、かと言ってずっとここにいたいというわけでもなく、困っていないわけでもないけど、困っているわけでもない…。あいまいなままにきてしまつて、正直とまどっています。(宮城県山元町、四十代女性)

★被災前から主人は埼玉で働いていたので、同居するようになり、1年と8か月になります。津波での避難なので、以前住んでいた場所には戻れないですし、かと言ってずっとここにいたいというわけでもなく、困っていないわけでもないけど、困っているわけでもない…。あいまいなままにきてしまつて、正直とまどっています。(宮城県山元町、四十代女性)

※アンケートの配布方法が均一ではないため、各設問の回答分布や比率は、埼玉県内の避難者の方々の意見を必ずしも統計的に反映している訳ではありません。また、紙幅の都合上、自由記述を引用するにあたって文章の一部を圧縮しています。

図5. 今後の生活の予定



◎浪江風焼きそばのお店『倅助』

越谷市東越谷3丁目8-5 TEL 048-940-2881
平日11時～14時 木曜日定休 土日祝11時～17時

昨年1月の開店以来、東越谷ですっかり地元のお店として根付いてきた浪江風焼きそばのお店「倅助」。現在は南相馬から避難してこられた渋谷美津子さんが腕をふるっています。「だいぶ状況が変わってきたね。福島に戻った人もいるし、仕事の関係で東京に越して行った人もいる。私はここで暮らしていくのかなあ、まだわからないけど、だいたいね」…少しずつ日常を取り戻そうとされている様子です。



大きなお祭りなどにも出店したり、今後はお昼時に市役所への出張販売なども考えているとか。店舗は避難者の集まりなどでも使われることがあるそうで、取材中に一歩会の支援者・関根さんが「明日は芋を植えるからおいでよ」と誘いにくると、注文の電話が入りました。「前もって予約してくれたら配達もしますよ」とのこと。メニューは、太麺・もやしがつたっぷり入った大ボリュームの浪江風焼きそばのほか、イカ・ぶた・ミックスのお好み焼き、越谷生まれの新名物「とんこし焼きそば」。ぜひ一度食べて見てくださいね!(T)

◎『BISTRO相馬亭』

熊谷市新堀新田492-12
TEL048-532-6815



2012年夏、「相馬亭」というお店ができたという情報を入手した福玉便り編集部は、冷たい生ビールを求めてJR高崎線龍原駅に向かいました。徒歩5分ほどでめざすお店に到着。さっそくスベアリブをほおぼりつつ、オーナーシェフの関敏明さんにお話を聞きました。

関さんは札幌育ち。有名ホテルなどで修行したのち、東京や山梨でフランス料理など洋食のシェフとして活躍しました。震災3年ほど前に母親の故郷である相馬に移住。震災時は南相馬市小高の焼肉店で働いていました。

何力所か避難先を転々としたあと、2011年夏、知人の紹介で熊谷にきました。実は、朝3時から工場の社員食堂で働きながらお店を開業。

「いろいろな人にお世話になってきた。頑張らなくちゃ」と、関さん。昼間は高齢者の居場所にできないか、と模索中とのこと。す。「いつか、相馬にお店を出したいです」(N)



◎寄り添いステーション騎西

平日7時～17時に開設のほか土日にイベント。加須市正能11-5 TEL0480-31-9511



寄り添いステーション騎西は、加須ふれあいセンターによる運営のもと、2012年の7月8日にオープンしました。ステーションのなかでは、双葉町の森さん・関根さんが作った「茶まんじゅう」の販売、渡辺さんによる書道教室、「双葉整膚クラブ」の方々によるマッサージ、野菜や手作り雑貨の販売など、多岐にわたる活動が展開しています。11月からは、お昼の定食の提供も始まりました。そのほか、毎月第2土曜日には「寄り添いコンサート」が開かれており、双葉町にゆかりのある方々が三味線や弾き語りなどを披露しています。

加須ふれあいセンターの山口さんは、「今後も、双葉町の人と加須市の人が区別なく、一緒に何かをしていく場所にしていきたいです」と思いを語ってくださいました。(H)



◎双葉理容

TEL: 0480-53-4865 (定休日: 月・火曜日)
〒347-0105 埼玉県加須市騎西19-8

福島県双葉郡双葉町は、現在、警戒区域として立ち入りが制限されています。その双葉町から、町役場と住民が、埼玉県の旧騎西高校に避難されています。その中の一人、大井川繁光さんは、避難の地である加須市で、昨年12月「双葉理容」をオープンさせました。妻・昭子さん、長男の妻・礼子さんと、お店を切り盛りしています。

「最初は、ここでお店をはじめても人が来てくれるのか、と心配でした。でも、今日も4人ほどお客さんが来てくれました。ここで、同じ境遇の方とお互いの震災から今までの話をし、一緒に涙を流すこともあります」

孫に残そうと思っていた自分のお店もなくなってしまい、今後どうしていくか、悩んでいると大井川さんは言います。

「不安なことはあるけれど、いまは、お金儲けより、お客さんが大事。来てくれるから一生懸命やろう、という気持ちになります。オープンの時、いろいろな人が来てくれて嬉しかったけど、もっと嬉しかったのは、最近の、2回目のお客さんです。」

オープンだから行ってあげようというのではなく、ずっと応援してくれていることを感じるんです、とお話してくださいました。双葉理容は、男性はもちろん、女性のためのカットメニュー、シェービング・フェイシャルエステやローションパックのメニューもあります。メイクはサービス。お子さん連れの方は託児もあります。是非、足を運んでみてください。(I)



万代洋子さん(石巻市からさいたま市へ避難)

震災直後に、石巻から娘が住んでいるさいたま市へ移り住みました。



さいがい・つながりカフェで福島からの方々と知り合いになり、いろんな機会に声をかけてもらったおかげで友人がたくさんできました。

この縁を大切にしていこうと思うことで前向きに暮らせるようになりました。

ですから『福島』『宮城』と出身地にこだわる気持ちはありませんが、同郷の方と出会って話すのもやはり嬉しいものです。

つながりカフェでも同じ石巻出身の方々と故郷の話ができるようになりましたし、同郷の支援グループとの交流も始めました。

春からはパソコンを勉強して自分で情報を探そうという気持ちで芽生えています。福玉の読者の方で宮城出身の方がおられたら、お話ししたいですね。

村上秀雄さん(楢葉町からさいたま市へ)

楢葉町から5回の避難の末、埼玉にお世話になっております。

福島島の自宅の近くには中間貯蔵施設ができ、放射能が心配されます。夫婦だけで帰って生活するのか、終の棲家をどこにするのか、決めかねています。

帰ったとしても、自然とふれあうことができず、何をして過ごしているのか・先の見えな生活が続きます。



いわき市より避難中のTさんとSさん

3・11が近づく、震災当初の様々な思いが鮮明に蘇ります。私たちにとって、震災は今もまだ終わっていません。

いわき市は、地震、津波の被害、そして原発事故の被害を受けました。さらに、避難区域から離れた方々2万人以上の受け入れ先にもなっている、複雑な地域です。

私たちは、子どもへのリスクを可能な限り減らすために避難しています。ほんの数キロの差で国の避難指示の出なかった土地に住んでいたため、何もかも自己責任とされています。

唯一の希望とも言える「原発事故子ども・被災者支援法」を、いわき市、福島県をはじめ、全国各地の人に知ってもらい、被災者にとって有意義なものにしてもらいたいです。震災・原発事故の風化が進む中、興味のない方にも関心を持ってもらえたらと思っています。



福地光春さん(宮城県東松島市から新座市に避難中)

津波被害により新座市にある公務員宿舎で子どもと二人でお世話になっています。発災から2年の時が過ぎ、今でも震災の事が蘇ってしまいますが、何かをしなればということで、仕事を見つけ、今は打ち込んでいます。



避難生活を始めてからしばらくは、都会の人とは話しづらいな、話かけると怒られるのではないかなどと気後れしてしまうこともありました。しかし、新座つながりカフェであたたかく迎えられる、自分の胸のうちを明かすことができる方とも出会うことができ、それが今の避難生活の支えとなっています。

故郷へ帰りたくても帰れない、そんな状況がまだしばらく続きます。同じ境遇にある人同士で支えあっていくために、新座つながりカフェを運営してきた皆さんのご協力をいただきながら、交流会の運営に携わっていければ、さらには近隣の皆さんとも自治会活動などを通じて、交流を深められればと思っています。

福玉便り 2013 春の号外

企画・監修：広域避難者研究会・埼玉班

西城戸誠(法政大学人間環境学部)

原田峻(東京大学大学院人文社会系研究科)

執筆：『福玉便り』編集部

伊藤千亜(ここカフェ@川越)

薄井篤子(With You さいたま さいがい・つながりカフェ実行委員会)

永田信雄((一社) 埼玉県労働者福祉協議会)

西川正(NPO 法人ハンスオン埼玉)

原田峻(東京大学大学院人文社会系研究科)

町田由香(震災支援ネットワーク埼玉)

編集デザイン：NPO 法人ハンスオン埼玉

協力：(一社) 埼玉県労働者福祉協議会

震災支援ネットワーク埼玉 (SSN)

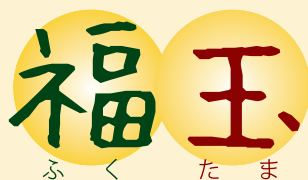
印刷：西桜印刷株式会社

連絡先：(一社) 埼玉県労働者福祉協議会

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21

TEL 048-833-8731 メール:fukutama@431279.com

本誌は、厚生労働科学研究費補助金「福島第一原子力発電所事故による避難者のソーシャルキャピタルと被害構造に関する実証的研究」(平成24~26年度)による成果の一部です。



募金 を呼びかけています。

埼玉県内に避難されている福島・東北の方々の
「隣りにいる人」になっていただけませんか。

地震、津波、原発事故から3回目の春を迎えました。

ふるさとを遠く離れ、家族と離れ、埼玉にも**6700人以上**の方が避難しています

住む家のこと、仕事のこと、子どものこと、家族のこと……、

先の見えない不安の中で、今日も埼玉で暮らしていらっしゃいます。

十分な情報や具体的な見通しも持てない中で、

「次の決断」を迫られている方も数多くいらっしゃいます。

私たちは、この2年間、「支援」という名でたくさんの方々と出会い、話をし、食べて、泣いて、笑ってきました。ふりかえると、何ができたというわけではなく、ただ「隣りにいた」だけともいえます。これからも、そうかもしれません。

でも、それが私達にできることなら、可能な限りそうしたいと思っています。

そして、もっと多くの方と一緒に「隣りにいる人」でありたい、と願っています。

2013年
3月～5月
目標金額
200万円

しだいに報道や情報が少なくなり、不安に感じますが、『福玉便り』が届くと「私達がここにいる事を忘れないでいてくれる人がいる」と思い、ほっとします。
(福玉便り編集部にいただいたメールより)

送金
先

中央労働金庫 さいたま支店 普通預金 6600705
郵便振替口座 00160-0-291210 福玉募金

*3000円以上ご寄付いただいた方には、福玉便りを一年間お送りいたします。

送付先お名前、ご住所を下記までご連絡ください。

メール:fukutama@431279.com FAX:048-833-8746



募金 は、こんな活動につかわせていただきます。

- ①家族、親戚、友人の「再会」を応援します。
- ②避難者同士が支えあう活動を応援します。
- ③避難者と埼玉県民の出会い・支えあいを応援します。
- ④避難されている方に、メッセージを送り続けます。

- 県内各地で行われている避難者による交流活動の応援

県内各地で開かれている交流会などの会場費、託児の費用など

- 『福玉便り』の発行

月刊で発行している避難者向けのニュース『福玉便り』の発送費用など

- 『福玉バス』の運行

年数回、福島と埼玉を結ぶバスの運行経費の一部を応援

- 避難者グループ同士のネットワークづくり

県内15の避難者自身のグループをつなぎます(福玉会議の開催など)

募金の使途・決算については、定期的にインターネット、報告書、報告会などを通じてご報告いたします。



募金に関する
ご連絡は
こちらまで

(一社) 埼玉県労働者福祉協議会 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21

TEL 048-833-8731 メール:fukutama@431279.com

または 特定非営利活動法人ハズオン埼玉 TEL: 048-834-2052 まで